

50周年を迎えて

松本太郎 (工業化学科教授)

内海 諭 (工業化学科教授)

和井内 徹 (工業化学科教授)

司会 伊藤和雄 (元保土谷化学工業(株)中央研究所長・
50周年記念誌編集委員長)

伊藤 工化50周年を迎えるにあたり、学内の先生方のお声をぜひお聞かせたいと思います。工化創立の頃の話をお松本先生からお聞かせ下さい。

創立当時

松本 私は昭和12年に予科理科に、そのときは機械工学科で入ったのですが、予科2年のときに「来年4月から新しく工業化学科が設立される」と聞き、有志が集って円谷さん(当時の工学部学監)に工化に入れてほしいと嘆願に行きました。だから最初から予科理科に工業化学志望で入ったのは2回生からなのです。

伊藤 専門部や高工は学部が出来る前にすでにあったのでしょうか?

松本 昭和13年に設立されていました。

伊藤 工業化学科という名称をつけたのは私だと永井彰一郎先生からよく聞かされましたが。

松本 学監の円谷さんが東大に頼みに行き、永井先生が工業化学科の創立について引受けたと聞いています。

和井内 工化創立当時の日大新聞をみるとそのあたりのいきさつがよく書かれています。工業化学科の名称についても。

内海 その当時は応用化学科で工業化学科という名称はなかったですよ。永井先生は先見の明があったといえますね。創立当時には、東大の若手の先生が非常勤講師として随分みえていますね。当時では有名ではなかったけれど、後に有名になった人ばかりです。分析の岡宗次郎先生も講義に来られていますね。

伊藤 非常勤講師だった青山敏貞さんも当時のことについて記念誌に一筆かいていたと思います。

内海 駿河台が東大に距離的に近かったし、当時は私立大学が余りありませんでしたからね。それに永井先生(日大・東大兼任教授)から頼まれて引受けられたのでしょうか。

伊藤 松本先生はまるまる3年でしたか。

松本 いや短縮でした。

内海 私もそうです。東京文理科大学に昭和17年入学して、19年9月卒業です。勤労働員に行っても余り勉強しないで卒業ですよ。

和井内 私は中学の頃勤員で1年間新潟鉄工で戦車をつくらされてました。

伊藤 創立の頃はひとクラス何名でしたか。

松本 46名でした。

和井内 旧制学部は定員80名と聞いてましたが。大学が100名前後でしょう。私は新制になったときで、クラスは110名で実験台や天秤などの設備上、これ以上人数をふやしても駄目だと小山先生(後の新潟大学理学部教授)ががんばったと聞いてます。

伊藤 46名位だとい、ですね。い、教育が出来るでしょう。現在の学生数はどうですか。

和井内 多いですよ。(笑)

内海 あの当時の先生はほとんどが東大出身ですね。今は私と板橋先生と岡島君以外はみな日大出身ですが。

三つの学部

内海 新制になるときに専門部が郡山に移ったのですか。

松本 そうです。駿河台に2つの学部は出来ないの、専門部を郡山に移し、学部昇格させたのです。

内海 津田沼校舎(現生産工学部)も兵舎だった建物で暗い教室で講義をした覚えがあります。その当時は工業経営学科で、そのなかに土木コースとか工業化学コースがあったのです。短大も津田沼校舎でした。ところで駿河台の2号館が古くてきたなくなりましたね。

松本 戦後、駿河台校舎を全部処分して昔の岸体育館の場所に移る話があったこともあります。馬事会館(現在の1号館前のNTTの建物)を買わないかという話があったこともありますよ。

内海 駿河台は何ととっても便利な場所ですよ。

松本 便利な場所だから私立大学ができたのでしょ
う。

内海 私立大学は多角経営だから、二部もあったし
ね。今は学部も短大も二部はありません。

松本 当時は都内に化学工業の会社や工場がたくさ
んあって、勤労学生が通えたのですよ。いまは、
工場が郊外や地方に移転してしまっし。

内海 昔は二部の意義を十分果していましたね。

伊藤 土地の価格は大変なものでしょう。

内海 習志野キャンパスが出来て、そのうち全部向
うに移転しようじゃないかとの話もあったけれ
ど、その後、「駿河台は確保しよう」というこ
とになったので、将来も変わらないでしょう。私
が東工大から赴任してきたのは40才のときでし
たが国立大学とかなり違うので驚きましたが、
今では地方の国立大学に比べたら（分析化学に
ついて）設備はよい方だと思います。

伊藤 現在は講座制ですか。

内海 講座制ではありません。そのためによい面も
あるし、悪い面もありますね。

和井内 昔は二部もあったので、私達は朝8時から夜
9時位まで、よくやりましたよ。

内海 昔は1時限目は8時始まりでしたが今は9
時。

松本 戦前は会社は8時始まりでした。

伊藤 今でも工場は8時が多いでしょう。事務系が
9時ですね。

和井内 昔の授業は1時限が100分でしたが、今は90
分です。

学生の気質は

内海 日大の学生は協調性があります。

和井内 会社の求人では、昔のように協調性を求める
だけではありませんでした。

伊藤 そうですね。入社試験でも会社では面白い人
物をとれといいますよ。しかし特色のある人物
が減った様な気がします。

内海 特色のある学生が減ったのはうちの大学だけ
ではないのでしょうか。

松本 余り突飛なことをやるのも困るけど、ユニ
ークな学生は減りましたね。

内海 基礎学力を身につけさせ、応用がきくよう
にしておけばよい。しかし気力がないといけませ
んね。私が赴任してきた頃の学生の成績は、ピ



松本教授 伊藤氏

ンからキリまであって、その差が大きかった。
性格も「やる気のある」のや、遊んでばかりい
るのがいて千差万別でした。最近では高校時代
から偏差値教育でふり分けられて入ってくるか
ら、平均していて特色がなく、昔のような面白
味は少なくなってきました。

和井内 化学をやりたくて入ってきたのではない学生
に対してどうやって興味をもたせるかなかなか
難しい問題です。

伊藤 会社でもそうですね。若い人の気力が足りない
感じがします。

和井内 入学試験のやり方も思い切って変ったことを
やってもよいのではないかと思います。

伊藤 本当にそうですね。

内海 偏差値教育の弊害でランク付けが行なわれる
ようでは駄目ですね。会社では必ずしも学歴社
会だけではなくてきているでしょう。

伊藤 そうです。それに大学の成績だけでもありま
せん。

これからの大学院は

内海 紛争を境にして大学院が変わりましたね。私が
日大に赴任してきたときは、大学院の博士課程
は有機応用化学でした。修士の学生も少なかっ
たけれど今は30名位にふえ、名称も工業化学一
本になりました。

和井内 駿河台4号館は建てたときは大学院の建物と
してでしたし、大学院に対して理工学部は強い
意欲はもっていたのだと思いますけれど。

内海 現在は会社が大学院卒を求めてきているし、
教育も学部だけでは不十分ですから、大学院に
進学する学生がもっと増えるとよいと思いま

す。

将来のこと

内 海 現在の18才人口は多いけれど将来減少し、応募者も減ってきたときには工化は先ず編入生を含めて1学年 240名の目評から 200名にすべきでしょう。(理工全体で学科と学生数について目下委員会で検討中)

和井内 他大学では、工業化学科が2つか3つにわかれて、高分子工学科や環境工学科や化学工学科ができたりしたけれど、日大はそうしなくてよかったと思います。もっともこれからも工業化学科だけでよいのかどうか疑問とは思いますが。一度ふえたものを後でへらすのは大変難しいですね。

伊 藤 会社ではいろいろな資格をもった人を集めなくてはならない時代があったけれど、現在ではそれも過ぎましたね。

内 海 日大の工業化学科は理工学部、生産工学部、工学部に設置されているので合計すると大変な数になります。今後は人数はふやさないで中味を充実させるように考えなくてはいけないと思います。

伊 藤 バイオ関係などとの関連で、工業化学の範囲や境界は大変あいまいになってきていますね。バイオは化学でもあるし生物や農学でもありませんし。

内 海 一時、工業化学科の志願者が減ったときがありました。あるときからまたふえてきた。少くとも、2～3年は減りそうにはありませんね。

伊 藤 化学はいろいろな業種のどこの会社でも必要ですからね問題は理工学部の特色をいかに出すかということです。特に日大には生産・工学部や短大と同じ工業化学科があります。世間ではみんな同じく日大の工業化学ということになりますからね。

内 海 目下のところは余り特色があるとはいえませんが。これからが全て見直しの時代だといえます。次の世代になると本当に悩みは多くなると思います。

伊 藤 今後日大理工の工業化学科がどのようになっていくかという点は、恐らくこれから25年あるいは50年経過すると、当然その評価が出てくる



内 海 教授 和井内教授

ことでしょう。将来、創立 100周年の記念誌が編集されるときにどのような評価が予測されるでしょうか。

内 海 恐らく卒業生は結構社会で活躍しているのではないのでしょうか。これは大学の伝統であり歴史ですからね。

和井内 昔は学生が応用化学会をつくって学生同志がお互いに発表したりした時代がありました。いまはこの大学にも化学系の学科があるから、いかに特色を出すかということでしょう。

内 海 うちの工業化学科のよいところは、実験実習に大変力を入れて教育していることです。特に、うちは卒業研究を1年間やらせていますが、全ての大学がみなそうとは限りません。また2年と3年の学生実験にかなり時間をさいてますし、これらは特色といえます。よい教育方針だと思いますよ。

和井内 そうですね。4年になって、まとまって研究をやらせるのは大変よいと思います。

伊 藤 本日はお忙しいところどうもありがとうございました。

(62・12・15) (編集上野敦行)

オリエンテーション

昭和42年度までは、新入生は世田谷または三島校舎で1年間教養課程の授業をうけていたが、昭和43年以降は全て習志野校舎に移して行なわれている。

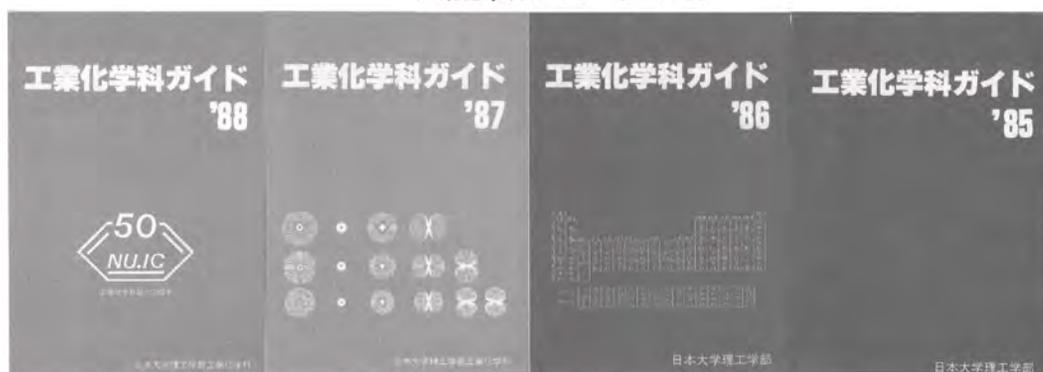
2年以降は、駿河台校舎に移り、以後卒業まで駿河台が本拠地となる。

工業化学科の学生としての自覚と将来の自立のために、駿河台に移行したときにオリエンテーションが行なわれている。大講堂に集まった2年次生に対して、“工業化学科ガイド”を配布し、工業化学科全教員を

紹介し、各研究室の研究テーマが説明され、将来時代に柔軟に対応できるエンジニアとなるための指標が示される。

また学生生活をより有意義に過してもらうためには、教員や学生相互の人的なつながりが重要である。これらの親睦を促すために日帰りのバス旅行や、一泊旅行、さらにスポーツ大会などが企画、実施され、卒業後もかつての学生生活のなつかしい思い出深い1コマになるようにしている。

工業化学科ガイド 表紙一覧



「化学に知的好奇心をもとう」

工業化学科主任教授 和井内 徹

工業化学科が創立されたのは昭和13年で、今年は丁度50周年になる。その間卒業生は16,000名を越え、日本の化学工業の発展に大きな寄与をした。

日本の化学工業は欧米の模倣からはじまった。化学工業の進展は、しばしばガス灯の点灯時期が目安にされる。ガス灯がはじめて点灯したのは1807年ロンドンで、パリは1815年、ニューヨークは1825年、横浜は1872年だからロンドンから65年、すなわち日本の化学工業がそれだけ遅れていたわけである。その日本が今ではGNPはアメリカを抜き、貿易黒字国、先進工業国になった。その中でも化学工業の発展はめざましく、これは工業教育の勝利といえる。わが日本大学の工業化学科は日本でも最大の卒業生を世に送り、今日の繁栄に貢献したことは間違いないと思う。

しかしこれからは高等技術者だけでは駄目でクリエーティブなトップ技術者が必要である。したがって

その積もりで勉強しなくてはならないが、そのためにまず知的な好奇心を持ってほしい。化学に知的好奇心を持つ1つの方法は実験を一生懸命やることだと考える。化学は長い間、実験から積み上げられた学問で、1979年にノーベル賞に輝いたウィッチヒは定年すぎから好奇心を持って多くの実験を行い演繹的にこの新しい反応を見出したといわれる。とにかく何らかの方法で知的好奇心を化学に持ってほしい。そうして大きな野心をもって大学時代の青春を意義あるものにしてほしい。

全米人文科学振興会会長チニーは「大学時代は知的探究の時期であり、図書館の本を読みあさり、考え方を異にする相手と激論を交わすための時期である。大学とは興味のわからないことに耐える場でなく、知的生活をいかに楽しむかを学ぶ場であるべきだ」といっている。(昭和63年度工業化学科ガイドより転載)



テクノロジーの殿堂で、その恩恵を肌で感じ、エンジニアとしての自覚が芽ばえてきそうな1日を教員と一緒に持ちました。

昭和58(1983)年4月、日大会館にて教員の紹介と各研究室の研究テーマが説明された。教員の中広くユニークな趣味など、人間性の一端を初めて知る。



筑波科学万博見学、昭和60(1985)年4月、1～4年生、大学院生および教員がバス20台で科学とハイテクの粋に触れ、21世紀の化学を創造する決意を新たにした1日でした。

カリキュラムの変遷

設立当時(昭和16年)の時間表と現在(昭和63年)の設置科目一覧とを対比した。

工学部工業化学科授業時間表

昭和16年度

| 第1年 (第34講堂) | | | | | | | 第2年 (第31講堂) | | | | | | | 第3年 (第33講堂) | | | | | | |
|-------------|------------|-------------------------|-------------------|--------------------|-----------------|---------------------|-------------|--------|-------|--------|--------------------|--------------|-------|-------------|-------|----------|--------------------|-------|------------------|--|
| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | | |
| 自八・〇〇 | 至八・五 | 至八・五 | 九・〇〇 | 九・五 | 一〇・〇〇 | 一〇・五 | 一〇・〇〇 | 一〇・五 | 一一・〇〇 | 一一・五 | 一二・〇〇 | 一二・五 | 一・〇〇 | 一・五 | 二・〇〇 | 二・五 | 三・〇〇 | 三・五 | | |
| 吉沢武男師 | 機械工学大意 | 有機化学 江上正夫師 紫垣和三雄師 | 電工大意 藤村師 | 実 仲師 | 無機化学 牧島師 | 有機化学 江上不二夫師 | 八田師(時間不定) | 化学工業第一 | 岡師 | 電気化学工業 | 廣瀬師 無機第一 中原師 | 有機第三 無機第一 | 山本師 | 有機工業化学第六 | 友田師 | 化学工業第二 | 廣瀬師 無機第三 中原師 | 山本洋一師 | 金 属 腐 蝕 | |
| 仲篤司師 | 実 験 | 学 | 應用物理学 真島正市師(六) | 分析化学 岡師 | 物理化学 山口文之助師 | 應用力学 小仲太郎師(4142) | 黒柳師 | 化学工学第四 | 横手師 | 化学工学第三 | 友田師 | 有機工業化学第四 | 平福師 | 無機工業化学第三 | 工藤師 | 有機第二 | 青山師 | 有機第五 | | |
| 西川師 | 工化大意 | 機械製図大意 横手正夫師 | 実 岡宗次郎師 | 独 語 実 中原師 | 實 岡宗次郎師 | 機械設計 倉林師(4142) | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 相田師 | 化学機械設計製図 第一 | 中原師 | 無機工業化学第一 | 岩村師 | 工業経済 | | |
| 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | 教 | | |
| 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | 練 | | |
| 五・〇〇 | 五・五 | 五・〇〇 | 五・五 | 六・〇〇 | 六・五 | 六・〇〇 | 六・〇〇 | 六・五 | 七・〇〇 | 七・五 | 七・〇〇 | 七・五 | 八・〇〇 | 八・五 | 八・〇〇 | 八・五 | 九・〇〇 | 九・五 | | |
| 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | 實 | | |
| 特許法 黒田師 | 光化学 牧島師 | 化学工学第一 黒田泰造師 | 化学工学第一 黒田泰造師 | 化学工学第一 黒田泰造師 | 化学工学第一 黒田泰造師 | 化学工学第一 黒田泰造師 | 化学機械設計製図 第二 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | 橋野佐一師 | | |

設置科目一覧

注：()内は単位数

Subjects of the Professional Education Curriculum

昭和63年度

基礎教育科目

●必修科目

基礎化学実験 (2)

●選択科目

工業化学総論 (2)
 数学解析 I (2)
 数学解析 II (2)
 統計学 (2)
 電子工学概論 (2)
 化学英語 (2)

専門教育科目

●必修科目

物理化学実験 I (1)
 物理化学実験 II (1)
 分析化学実験 (4)

工業化学実験 (4)
 工業材料実験 (2)
 化学工学実験 (2)
 卒業研究 (4)

●選択科目

無機化学 I (2)
 無機化学 II (2)
 有機化学 I (2)
 有機化学 II (2)
 物理化学 I (2)
 化学演習 I (1)
 無機化学 III (2)
 分析化学 I (2)
 分析化学 II (2)
 有機化学 III (2)
 有機化学 IV (2)
 物理化学 II (2)
 物理化学 III (2)

基礎化学工学 I (2)
 基礎化学工学 II (2)
 化学演習 II (1)
 有機化学 V (2)
 量子化学 (2)
 電気化学 (2)
 電子演算 (2)
 無機工業化学 I (2)
 有機工業化学 I (2)
 物性工学 I (2)
 物性工学 II (2)
 機器分析 I (2)
 無機工業化学 II (2)
 有機工業化学 II (2)
 有機工業化学 III (2)
 生物工学 I (2)
 生物工学 II (2)
 高分子化学 (4)
 高分子工学 (4)

工業物理化学 I (2)
 工業物理化学 II (2)
 化学工学 I (4)
 化学工学 II (2)
 反応工学 (4)
 機器分析 II (2)
 無機工業化学 III (2)
 有機工業化学 IV (2)
 工業物理化学 III (2)
 統計熱力学 (2)
 化学プラント工学 (4)
 化学工学実用数学 (2)
 安全工学 (2)
 工場管理 (2)
 特別講義 I (1)
 特別講義 II (1)
 特別実験 (4)

「カリキュラムの特徴と履修の心がまえ」

1. カリキュラムの特徴

工業化学科では、化学工業の多様化とめざましい技術革新に対応できるエンジニアを養成するため、何よりも工業化学の基礎を十分に身につけ、広い視野と豊かな人間性をもつ化学技術者の育成を教育目標としている。

この教育目標を達成するため、カリキュラムの第一の力点は工業化学に関する基礎科目の徹底的修得をめざしていることである。工業化学の基礎科目は、一般教養科目とともに、そのほとんどが1年次と2年次に設置されている。基礎科目を十分に修得し、この土台の上に、3、4年次に設置されている専門科目の履修に入る。一般教養科目は人間としての視野と思索をひろげるために不可欠である。

第二の力点は、実験・実習にもとづく履修の重視であり、工業化学の基礎から専門までの学科目を講義だけでなく、さらに実験を通して徹底的に修得させることである。実験科目は1年次から3年次まで講義科目と関連して巾ひろく設置されておりすべて必修科目となっている。

第三の力点は4年次の卒業研究特別実験の重視である。卒業研究は工業化学科における教育の総仕上げであり、工業化学についての研究手法ならびに創造力・独創力を身につけることをねらいとしている。卒業研究は学生諸君の希望する専門分野の研究室にて行なわれ、学生と教員とのマンツーマン教育が特色である。

2. 履修の心がまえ

工業化学科の学科目の履修に限らず、ひろく学問は積み重ねが大切であり、土台（基礎科目の修得）がしっかりしていないと、がっちりした家（専門的知識）をつくることはできない。土台は後から作るわけにはいかない。4年間の大学生活での土台は1、2年次での努力が非常に大切であることを銘記してほしい。

① 2年次終了時に基礎科目（1、2年次設置）の履修が完了していることが望ましい。

② 専門科目は、工業物理化学系、分析化学系、無機工業化学系、有機工業化学系、高分子学系、化学工学系などに大別できる。これらの学科目を履修するには、それぞれの系列に必要な基礎科目の履修完了が望ましい。

③ 教育上の配慮から工業化学科独自の受講制限をしている科目があるので注意すること。

◇卒業研究着手条件：4年次の卒業研究（必修）に着手するには、3年次終了時までには総単位で102単位以上を取得していなければならない。

④卒業条件は履修要覧記載の通りである。

教職課程受講許可条件に関する工業化学科内規

工業化学科在籍の学生で教職課程を受講する者は、理工学部の教職課程の定めた受講許可条件の他に次の条件を満足していなければならない。

1) 各学年次の許可条件

2年次生○1年次に設置されている必修科目をすべて取得していること。

3年次生○2年次までに設置されている必修科目をすべて取得していること。

○2年次までに設置されている選択必修科目の取得条件を満足していること。

4年次生○3年次までに設置されている必修科目をすべて取得していること。

○3年次までに設置されている選択必修科目の取得条件を満足していること。

2) 受講許可の期間は1年間とし、各年度ごとに受講許可を受けなければならない。

※必修科目及び、選択必修科目は履修要覧に記載してある。

(昭和63年度工業化学科ガイドより転載)

講 義 ・ 学 生 実 験





852教室



851教室



852教室



分析化学実験



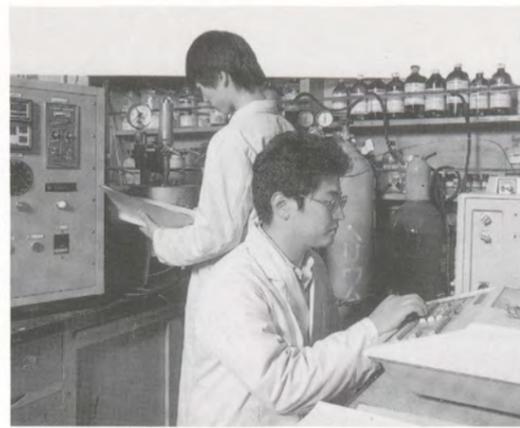
工業化学実験



有機合成実験



真空ラインによる高分子合成実験



G C 分析実験



X線小角散乱実験

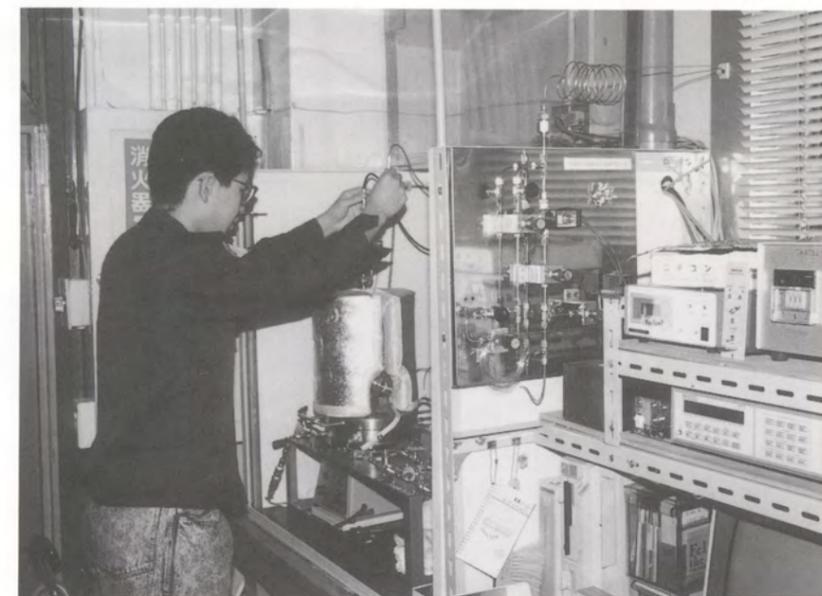


X線回折実験

卒業研究



卒業研究ゼミ風景



高圧気液平衡実験



真空ライン触媒実験



G C—M S 分析実験



L C 分析実験



原子吸光分析実験



酵素利用反応実験

若人が躍る スポーツ大会

“A sound mind in
a sound body”



— 躍動 —

日本大学理学部工業化学科スポーツ大会

昭和53年6月3日(土)

理学部習志野校舎運動場



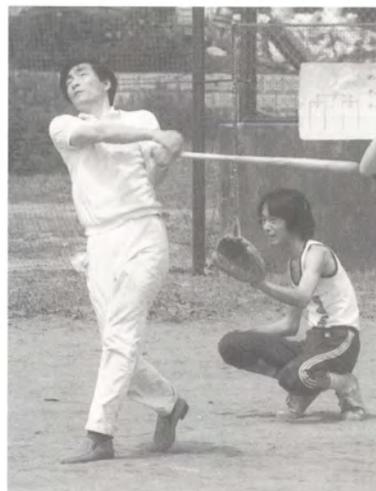
さあー，二人三脚のスタートですよ。



試合後の健闘をたたえて



ソフトボール：教員最強チーム



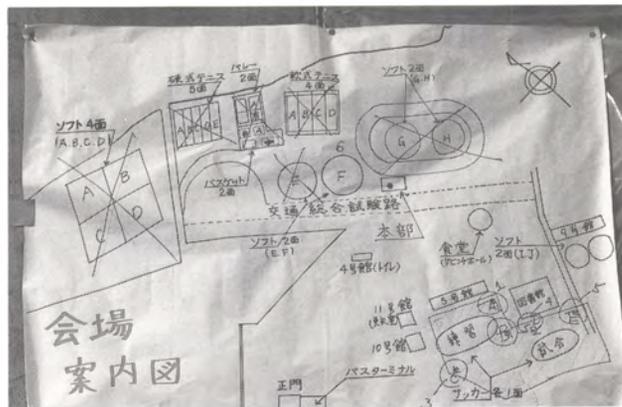
教員チーム：4番打者



昭和61年テニスの花



昭和55年開会式



広い習志野校舎全部を使って



対抗バスケットボール大会



多彩なチーム名がズラリと勢揃い

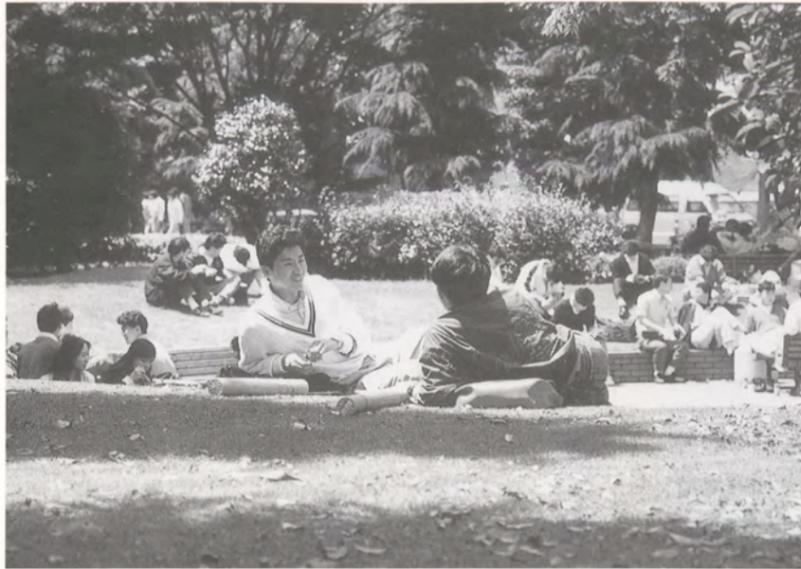


昭和54年記念撮影



昭和54年賞状授与

短大の学園生活



キャンパス風景

短期大学の使命は2年間で、一般教養と実的な専門教育を施し、実社会に貢献出来る社会人を育成することにあるが、本短大生の多くは、卒業後さらに各学部に入るといふ恵まれた環境にあり、最も固い絆で結ばれた学部でもある。

キャンパスは広く、緑の多い環境に接し、食堂もプラザ習志野を利用している。

毎年5月に実施される理工・短大合同スポーツ大会においては学科対抗綱引き、ソフトボール等の活躍が目立つ。

授業・実験風景は女子学生がクラスの半数に達しつつある状況から、明かるい賑やかな雰囲気がある。

恒例のオリエンテーションは、1年・2年合同で5月、2年生の研修旅行は10月に行なっている。両行事とも欠席者もなく、2日間に渡っての教員・学生との懇親の実をあげている。



授業風景



研修旅行 2年生伊豆下田へ



理工・短大合同スポーツ大会

学科対抗綱引き大会



スポーツ大会にてソフトボール優勝



実験室風景 (学生実験)



1年生大谷観音へ

卒業式風景



祝辞：21世紀を担う若きエンジニアの誕生を祝い、健斗を祈る。

昭和63年 3月

修了生・卒業生 殿

日本大学大学院理工学研究科
日本大学理工学部
日本大学短期大学部(習志野校舎)

卒業証書および修了証書の
伝達式について



卒業証書授与：4年間の結晶ここにあり。

あなたはこの度所定の課程を終えてめでたく卒業と決定致しました
ついては本年度卒業式を左記により挙行政致しますから出席されるよう通知致します

昭和六十三年三月

日本大学

記

一日時 昭和六十三年三月二十五日(金) 午前十一時三十分

一場所 日本武道館

東京都千代田区北の丸公園二番三号
JR飯田橋駅下車徒歩十五分
地下鉄東西線・都営新宿線九段下駅
下車徒歩五分

注意

- ① 午前十一時十分までに入場してください
- ② 入場の際は本状と学生証を受付に提示してください
- ③ 本状で午前九時の部に出席はできません
- ④ 式典参列に際しては手回品を持ち込まないでください
- ⑤ 駐車場の設備はありません

日時 昭和63年 3月25日(金)
学部：午後1時30分
大学院：午後3時30分
短大：午後2時00分

| 区分 | 伝達教室(駿河台校舎) | | |
|----|-------------|-----|---------------------------|
| | 学部 | 短大 | 大学院 |
| 土木 | 151 | 941 | 博士前・後期課程全専攻 一号館二階第二会議室 |
| 交土 | 742 | | |
| 建築 | 901 | 931 | |
| 海建 | 152 | | |
| 機械 | 731 | 921 | |
| 精機 | 143 | | |
| 航宇 | 138 | | |
| 電気 | 141 | 911 | |
| 電子 | 741 | | |
| 工化 | 851 852 | 153 | |
| 薬学 | 133 | | |
| 物理 | 732 | | |
| 数学 | 732 | | |

(注) 教職課程は午後3時より131教室で行う。



卒業式後の祝杯

乾杯！

喜びに満ち々々た一瞬を
胸に刻み、いざ進まん。





短期大学部恒例の記念撮影（駿河台校舎 9号館広場）



華やかな卒業パーティー



大 学 院



大学院生と担当教員との
顔合せ会
“学部にも増してお世話
になります”に対して、
常に“切磋琢磨されんこ
とを祈る”と激励。

大学院懇親会 昭和58年6月



大学院論文審査会終了後
の師弟の和やかな一コマ

大学院パーティー 昭和63年3月



海外語学研修

—昭和60年—
カナダのプリティシュ・コ
ロンビア大学 (U. B. C)
において



研修風景



U B C シンボルタワー



U B C シンボルタワーの前で

理工学部主催（技術外国語委員会立案）で、実際に役立つ語学研修と国際感覚を身につけさせることを目的として毎年行なっている。期間は約1ヶ月である。

第1回は昭和56年で、アメリカオレゴン州ポートランド大学、第2～4回は南オレゴン州立大学を主な研修地として行なった。写真は第5回（昭和60年）のもので、カナダのバンクーバー市、プリティシュ・コロンビア大学（U B C）を主たる研修地とし、さらにカナ

ディアンロッキー見学や産業視察、ビクトリア見学、帰路アメリカサンフランシスコ市内見学などを行なった。参加者は54名であったが第6回は106名と参加者はふえる傾向にあり貴重な海外体験、生きた英語の研修などの成果があげられており、今後も益々発展するものと思われる。

第5回引卒者 植竹和也



松本先生日本油化学協会会長に就任(昭和56年)

松本太郎教授の日本油化学協会会長就任祝賀会が、昭和54年8月4日、東京ヒルトンホテルにおいて盛大に開催された。

松本太郎教授は工業化学科の第1回生(昭和16年卒業)で、油脂化学の大家であり、日本油脂化学協会草創の頃(昭和23年)から協会の若手有力メンバーの一人として参画され、事後協会の重要役職を歴任され、

私学出身者として始めて会長に推薦された。第9代会長として昭和54年4月から昭和56年3月までの2年間、その重責を全うされた。

祝賀会は松本研究室の卒業生を核に開催された。当日は理工学部先生方を始め多数の方々が集まり、盛大でなごやかな会であった。

臨席 教授 田村利武



講演するWisniak博士



Wisniak博士ご夫妻



化学工学研究室を訪ねたWisniak博士、小島先生他スタッフと共に。

客員教授の招聘（昭和59年）

本学では各学部当番制で毎年世界の第一線で活躍している優れた学者を客員教授として招聘し、講演や研究をめぐる座談会、討論会などを行なっている。昭和59年は理工学部工業化学科が当番となり、小島和夫教授のお世話で、超臨界ガス抽出や油化学を含む化学工学の研究で世界的に著名なイスラエル・ベングリオン大学教授Jaime Wisniak博士を招聘した。

日大理工—クウェイト大学

交 換 教 授

昭和56年



20 / 50の踏台

元教授 和田 英 一

アダムとイヴの例のリンゴの木が現にあると云うチ
グリス・ユーフラテス河口に程近いクウェイト空港に
降り立った時は、タンポポらしき黄色の花が初夏の陽
光に輝いていた。1981年2月末の事である。大型客船
を改造したホテルマリオットの特別室からクウェイト
大学への往復が始まった。前年加藤学部長並びに工業
化学科、板橋・和井内教授等の訪問で具体化した第一
回交換教授の幕開けである。(写真中・左)大学差向
けの運転手はベドウィンの好漢で、アラビア語以外は
手話しか通じない。

大学は国内に唯一つ。男子に比し外国留学の機会に
めぐまれない女子学生の数は圧倒的に多く(約7割、
写真上)、男子学生は後方に影がうすい。要請に従い高
分子物性について約半年がかりで準備した英文テキスト
を用い、理学、工学部学生、時には職員に4月迄「め
てにテキストゆんでにコーラ(コーラン?)」の毎日。

この国はノンアルコールである。平常はアラビア語の
みの学生・スタッフが英語に何一つ不自由ない事は、
わが孤国の英語教育改革に示唆するところ大である。
写真下は休日石窟古都ペトラ探訪(熊本砲兵第六聯隊
騎士の勇士?)

其他の詳細は1)にゆずる。なお筆者日大着任20年来
の工業化学科との歩みの跡を顧みたいのであるが紙数
の関係でここに略し、その大部分を理工サーキュラの
記事に又ゆずる。これら20年間の積立ては、本科栗田
・田川・平松其他学生諸君の直接の協力並びに同僚先
生方の温かい応援の賜物であり、このささやかな20/
50の踏台を蹴って本学科の先生方、卒業生諸兄が更に
輝かしい未来に向って突進されん事を切望する。

1) 日大理工研速報10, 7~13(1981) 2) 理工サーキュ
ラNo.31「研究室だより」

(昭55.11.25)。

韓国学生使節団 昭和42年



「義に死に、誠に生きる」韓国中央大学



国立軍人墓地参拝



国立墓地参拝に記帳されている小島教授

教授 小島和夫

日本と韓国との国交が回復して間もなく、未だ韓国が地理的には近い国であっても存在としては遠い国であった頃日本大学と韓国ソウルの中央大学校との間で学生相互交流が行なわれることになり、日本大学訪韓学生使節団は中央大学校との交歓のために昭和42年6月12日より10日間にわたって韓国各地を訪問した。メンバーは団長(小島和夫)、副団長(田沢智治)及び各学部より推薦された10名の学生を含む12名である。当時は韓国をおとずれる日本人は未だ少なく、対日感情もきびしかった時代であり、出発にさきだって総長(永田菊四郎)、理事長(古田重二良)、大学関係者により激励の歓送会が催され、真に親善と交友の使命をになつた訪問だった。

緊張した訪韓であったが、韓国では終始温かい歓迎

をうけ交歓を重ねた。最初の行事の中央大学校訪問、イム総長主催のコリアハウスでの歓迎レセプション、韓国文教部訪問、国立墓地参拝と献花、シン韓国司法長官主催のウォーカーヒルでの歓迎夕食会、日本人として最初であった第5海兵隊の訪問と旅団長リー將軍主催の昼食会、38度線にある板門店見学、韓国の歴史と日韓交流の足跡をたずねることもあった慶州への旅、韓国の代表的工業地帯・蔚山コンビナートの見学、韓国在住の校友による夕食会など、10日間の日程はまるで夢のように過ぎさって行った。帰国後、メンバー全員で韓国の実状と印象をまとめた訪韓記をつくり、感謝をこめてお世話になった方々に送った。この訪問記の第一頁は永田総長の巻頭言でかざられている。

南京化工学院 客員教授 昭和59年



中国の化学工業・化学工学分野のすぐれた指導者の一人である 時 鈞 教授



中国各地の大学から集まり講義を聞いて下さった先生方と研究生

教授 小 島 和 夫

最も近い隣国の1つであり、千年以上のむかしより往来があり、古い歴史と広い国土、何よりも共通の漢字をもつ国、中国を訪ねることは私の長年の願いでありました。たまたま客員教授の招請をうけ江蘇省南京化工学院で化学工学熱力学を2週間にわたって講義する機会をえました。

南京化工学院では毎日3時間づつ講義をしましたが、主体は私が専門とするグループ寄与法による相平衡の推算である。講義をきいて下さったのは中国各地からこられた大学の先生方と研究生で、約60名である。南京化工学院は南京大学と金陵大学（南京はそのむかし金陵といわれていた）の化工系学科の併合により解放後の1958年に建立された単科大学であり、化学工業部（化学工業省）に所属する大学である。設置されている

学科は化学工程系、化工機械系、ケイ酸塩工程系および高分子工程系の4学科である。学生数は学部約1800名、大学院約20名である。一方教職員数は約950名で、このうちの45%が教員となっている。

中国にある大学の数は約1200である。やはり都市に集中しており、北京に50、ついで上海、西安の順にそれぞれ40程の大学がある。日本とちがって総合大学だけが教育部（文部省）の所管で、単科大学はそれぞれの省に所属している。南京化工学院と同様化学工業部に所属している大学は全部で7校で、北京、鄭州、武漢、山東、瀋陽、吉林にもある。

中国の大学での研究は率直にいつてこれからというのが実状であるが、急速に進展するものと思う。日本との学術交流への期待も大きい。

叙 勲



本学名誉教授市川良正先生は、昭和48年4月29日勲三等瑞宝章の荣誉に浴され、その受賞祝賀会での記念写真
(昭和48年6月24日帝国ホテルにて)

日本大学名誉教授 市川良正先生叙勲祝賀会 昭和48年6月24日 於帝国ホテル



本学元教授（東京工業大学名誉教授）崎川範行先生は昭和55年11月3日勲三等旭日中綬章の荣誉に浴され、その受賞祝賀会での崎川先生（昭和55年12月6日赤坂プリンスホテルにて）

本学元教授（東京工業大学名誉教授）金丸競先生は昭和45年11月勲三等瑞宝章を受けられた。
写真は叙勲祝賀会での記念撮影



内海先生 日本分析化学会賞受賞(昭和56年)

本学科教授内海諭先生は「微量陰イオンの吸光光度法に関する研究」で日本分析化学会賞を受賞される名誉に輝かれた。先生の数多くの業績の中でも「微量塩素イオンの定量法」は、内海法として世界各国の公定法に採用されるなど特に著名である。



外国人名誉会員なども出席した受賞式の風景
(昭和56年10月京都会館にて)



分析化学会賞受賞記念講演が行なわれた
京都会館の前で日本大学関係者と記念撮影

受賞祝賀会での内海先生御夫妻
(昭和56年11月パレスホテルにて)

